

## 24年度決算の概要

平成24年度も、経営に対する取組みとして、引き続き常任理事会、理事会を定期的に開催し、月次決算報告内容の改善を図りながら、さらなる活発な議論を展開するとともに迅速な意思決定を図りました。また、年度計画の達成に向け、院長による全部門ヒアリングを引き続き実施し、組織目標や課題認識の共有、課題解決への取組みを通して、PDCAサイクルの確立や全職員の経営意識の向上を図りました。

具体的には、中央市民病院においては、地域医療連携のさらなる推進に努めたことにより紹介、逆紹介率ともに平成23年度を上回ったことや入院前検査センターの活用等によって平均在院日数が短縮されたこと、手術件数も23年度を大きく上回り、病床利用率も95%を上回る結果となったことにより入院収益が上昇しました。また、外来についても外来化学療法及び外来手術の件数の増加とともにPET-CTの効果も加わり大幅な増収となりました。

西市民病院においては、着実な医師確保により体制整備が図られ、全身麻酔を伴う手術件数の増加や病床利用率90%の維持及び平均在院日数の短縮等につながり、また、外来では、外来化学療法件数及び透析件数、検査件数の増加によって医業収益が増加しました。

費用の合理化の面では、診療材料等の共同購入や複数年契約など、多様な契約手法を活用することにより、材料費比率は目標値を達成しました。

単年度資金収支については、上記取組の結果、目標値（13.6億円）を大きく上回る31.3億円の黒字となりました。

当期純損益についても、22.6億円となり、目標値（1.9億円）を上回りました。

経常収支比率は、中央市民病院で105.2%、西市民病院で105.9%、医業収支比率は、中央市民病院で99.0%、西市民病院で99.4%となり、いずれも目標値を上回りました。

他方、神戸市から運営費負担金の交付を受け、これまで同様に不採算医療及び行政的医療を行い、引き続き市民病院の役割を果たしました。特に、中央市民病院での救命救急センターの効率的な活用やチームによる救急医療の展開、西市民病院で9月より木曜日及び祝休日の24時間救急を開始する等、救急医療の充実を推進しました。

平成25年度は、平成24年度に引続き、DPCを踏まえた平均在院日数の適正化、効果的な病床利用率の維持や手術及び検査枠の見直し等による件数の増加、地域医療機関との連携を図り、より多くの新規患者を受入れるなどにより、収入の確保を図ります。

引き続き経営改善に取り組み、安定した経営基盤を確立することで、市民の生命と健康を守るという市民病院が担う役割を今後も果たし続けていきます。